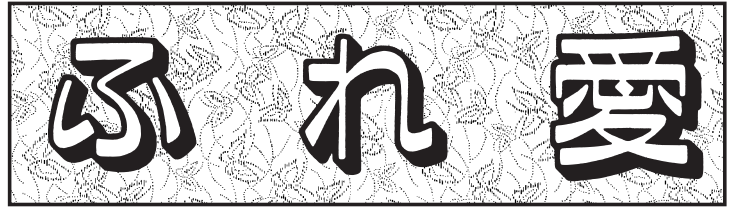


公衆衛生だより

No.13

発行

(財)長野市保健医療公社
TEL 295 - 1199



健康が一番

同社は、市民病院の運営管理、並びに市民の健康増進に寄与することを目的として長野市と長野市医師会等が設立した財団法人です。

安らぎと親しみある医療を目指し

地域の中核病院として

地域住民の保健医療の拠点として

平成七年六月に開院した長野市民病院は、昨年六月に開院五周年を迎え、間もなく六年度目を終えようとしております。

その間、市民病院は地域住民の皆さんの医療需要に合わせ、診療科の増科、医師・看護婦等の医療スタッフの充実、また、日々進歩する医療の最新技術導入など、より良質で高度かつ安全な医療を提供すべく、常に研究検討を重ねてまいりました。

市民病院は急性期医療を担う病院としての使命を果たすため、他の医療機関や診療所との連携を深め、地域ぐるみでの健康の増進、疾病の予防、保健医療環境の向上に努めております。

ラジオサージェリーの導入

長野市民病院では、昨年七月から、ラジオサージェリーによる定位放射線治療を開始いたしました。ラジオサージェリー(定位放射線治療)とは、エ



ラジオサージェリー

ックス線を10mm前後の細い線束にして、いろいろな方向から脳内の腫瘍などの患部に向けて集中的に照射する治療法です。そのため、従来はできなかった病巣周辺の正常組織への線量を下げることが可能になりました。

このため、従来はできなかった病巣周辺の正常組織への線量を下げることが可能になりました。これにより、放射線治療に伴う副作用を軽減することが可能になるとともに、治療期間の大幅な短縮が可能になりました。ラジオサージェリーには大きく分けて2つの方法があります。ひとつは、1回で全ての治療を終わらせてしまう方法。もうひとつは、4回前後に分けて治療する方法です。どちらを選択するかは、患部のある場所や病気の性質により異なります。

の病診連携により運用を推進してまいりたいと考えております。

医師異動のお知らせ

お知らせ

平成十二年四月以降に交替あるいは新任により新たに着任した医師は次のとおりです。

- 内科科長(循環器科) 丸山隆久
- 内科医師(循環器科) 新倉則和
- 内科医師(循環器科) 荻原史明
- 内科医師(呼吸器科) 畑山織絵
- 内科医師(消化器科) 進士明宏
- 内科医師 村木 崇
- 外科科長 関 仁誌
- 外科科長 大野 康成
- 外科医師 椎名隆之
- 外科医師 内川 裕司
- 形成外科科長 長田 佳郎
- 脳神経外科科長 上原 隆志
- 婦人科医師 大坪 真紀
- 眼科医師 川上 玲奈
- 麻酔科科長 藏當 辰彦
- 歯科・歯科口腔外科医師 清水 俊英

ふれ愛ひろば

長野市民病院は、はづきの会や草月流の皆さんを始めとして多くの団体や個人の皆さんによるボランティア活動により、



はづきの会の皆さん

お支えをいただいております。

はづきの会の皆さんには、外来サービスとして受付案内・手続き補助など、患者さんへのサービスとしては、身の回りのお世話・話し相手・看護の補助・介護など、また、環境整備として草取り・花壇やプランターの手入れ・衛生材料作り・折り紙・押し花講習会等をしていただいております。草月流の皆さんには、院内の生け花の管理をしていただいております。また、一般のボランティアさんによるリコーダーやバイオリンコンサート・クリスマス・新春等コンサートなど皆さんのイベントで皆様にご協力をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。

呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科は、心臓大血管と乳房・食道を除いた胸部領域の疾患に対して手術を行う外科で、主な対象臓器は肺です。日本人の死亡原因の一位である癌の中で最も多い肺癌、肺癌以外の肺腫瘍、若年者に多い自然気胸、肺以外の胸部の腫瘍などに手術を行っています。

手術は胸を切開（開胸といいます）して肺などを切除しますが、時に皮膚の傷は30〜40cmにもおよび、肋骨を数本切ることもあります。

一方、傷をできるだけ小さくして、患者さんの負担を極力減らすよう胸腔鏡（内視鏡）手術が普及しつつあります。数cmの傷が数力所にあるだけなので、手術後の回復は早く痛みも早期に消失します。最近では手術後2日で退院する患者さんも増えました。

なお、呼吸器外科を標榜したのは最近ですが、手術は開院当時から開始し、既に360例を越えています。その中で肺癌は150例、胸腔鏡手術は160例を越え、最近は一限られませんが）肺癌に対して胸腔鏡手術を導入しています。

外科科長 西村秀紀

知っておきたい 三二知識

アトピー性皮膚炎についてお話しします

この病気をもつ患者さんの数はひと昔前と比較するととも増えています。そのうえ、子供の病気がという印象が一般的ですが、大人になっても治らない遷延例、いわゆる成人の患者さんや、治りにくい重症の方が増えています。そのため、新聞、雑誌やインターネットなどを通し、たくさんの情報飛び交っています。そのなかには根拠のない、あるいは間違った治療法や、不安を煽るだけのもの、また、これに便乗したアトピーグッズといわれる怪しい商品なども出回ったりして、社会問題になってきています。

まず、アトピー性皮膚炎とはなんぞやということから考えてみましょう。一言で言えば体質的なものを基盤にして起こる湿疹ということです。それなら次に湿疹とは？となりますが、これはいろいろ刺激に対して通常と違う、反応や経過をたどる皮膚炎のことで、多彩な皮疹を特徴とします。でも、こんな説明だと、ますます分からないですね。そこで視点を考え、病気の診断とは、ということから考えることにします。病気の診断、すなわち病名には疾患の最初

の引き金となる原因でつけるものが分かりやすいです。皮膚科の病名でいえば、かぶれ、水虫、とびひ、などです。あるいは刺激を受ける側の人間の弱点という欠陥や人間の弱質を重視してつけるものもありです。遺伝病などが代表でしょうか。その他なんだから分からない時は症状や病状の組み合わせでつけるものも多々あります。診断基準なんてものが決められている原病などが代表です。それ以外に病理組織像を重視したり、最近では遺伝子を加味した診断もあります。決められた基準があるわけではありませんが、そのなかで、皮膚科の診断は発疹の症状、すなわち形態を正確に記載することから始まりました。いわゆる症状病名が、いまでも多いですが、原因や仕組みが分かるに従い、これらを重視した病名が増えつつあります。そのため、使われなくなる病名もいっぱいあります。話はいまが横道にそれてしまいましたが、そのなかでアトピー性皮膚炎は症状の組み合わせと体質を重視してつける病名であって、病気の引き金となる原因でつける病名ではないことを、まず理解してください。ですので、原因は分からないことが多い、分かる場合でもそれぞれちがいます。それどころか、いくつもあつたり、あるいは同じ人でも体の部位や季節、年

令などによって違う可能性もあり、引き金になる原因を見つけたことはとても困難なことです。要するに診断する際、原因や仕組みは考慮しないのです。まあ難しいから、そういうことは後で考えましょう。ところが患者さんで、ここが一番患者さんで、理解されにくいところですが、それさえ分かれば、後の説明は簡単です。具体的には、痒い発疹が長い期間続く、長い期間とは乳児とそれ以外で少し違いますが、半年以上続く。そして、その発疹は専門用語を使うと、苔癬化という状態をとる、それが左右対称性に、また年令の経過により出現部位が移動するという特徴があれば診断できるのです。血液検査も何も難しいことは必要ないのです。

そうはいっても病気の原因やら引き金、仕組みはだれでも知りたいものですね。そこで原因として推測されたり、予想されたりしていることは次のようなことです。本当のことは分かっていません。乳児期から3歳くらいまでは、卵や牛乳、大豆などの食事抗原によるものが推測されています。3〜4歳を過ぎると家のなかのホコリ、とりわけダニやカビ、犬やネコのフケなど、あるいはホルマリンに代表される化学物質、あるいは皮膚に常在する細菌やかび、あるいはトビヒや水イボなどの感染症、外傷などありとあらゆる刺激が引き金になると推測されています。ときにはアトピーの治療で使う軟膏などの薬も引き金になることがあり油断がなりません。ではどうしたらいいか、ということですが、どんな病気も原因や引き金を見つけて取り除く、というところが一番大切なことです。しかし、アトピーは診断は簡単ですが、原因がすぐ分らない、患者によってみな違う、季節、年令や部位によっても違うかもしれない。それが難しい病気とされるゆえんです。ですが、アトピーも他の病気と同じように、よく観察すると、その人の原因、増悪因子が少しずつ分かってくるのです。このような意識を常にもって付き合っていくことが大切なのです。でも、すぐ原因が増悪因子が分かるとは限りませんので、痒くて困る時は対症療法をしてなんとかしのぎましょう。というのが、まだ残念ながら現状です。対症療法にはステロイド軟膏の外用や抗アレルギー剤の内服などが一般的です。ステロイド外用剤には当然副作用もありますが、納得してから選択した方がいいでしょう。いずれにしても長い病気ですので、アトピーをよく理解することが大切です。病院へ来る時も、どんな病気が学びに来るといふ気持ちで受診されること、治療への近道と考えます。

あの人にはあいたい、二十一世紀が明るく、楽しい時代であつてほしいという願いは誰もみな同じだと思えます。暗かつた前世紀末の世相から、明るく、楽しい新世紀に転換するのはお互いの心の持ちようによるのではないかと思えます。幕末の志士、高杉晋作が「面白きこともなき世を面白く、住みなすものは心なりけり」と詠んでいます。一つの時代でも人は心の持ちようである、楽しくも、暗く、悲しくもなるもののようにです。笑いが人の健康にとって非常に大切なのは、気分的な作用だけではなく、笑いによって体の中の免疫作用を高めて、癌細胞に対しても抑制的に働くという身体的な効果もあるようです。怒りは動物の情、笑いは人の情、とも言われています。人は人と向き合うことにより心が通い合うことができ、それによってこそほんとうの幸せや豊かさを実感することができるとは、ないでしょうか。あの人にだけはあいたくない、というような人にならなく、あの人にはあいたくない（相田みつを）ものです。

院長 古田精市

院長の助言